

タイミングと気遣い

東京 市橋 博



なじみのスーパー

私にとって「買い物」はとっても身近なことです。週2回家事援助などのヘルパーに来てもらっていますが、ほぼ毎日、晩ごはんや食品の買い出しに近くのスーパーに一人で行きます。駅前にある24時間営業の大型スーパーで、何人かの店員さんとは顔なじみになりました。かれこれ8年間そのスーパーに通っています。

シニアカーで店内を回り、たいの商品は自分で取りますが、ミニトマトのパックやお弁当、パンなどは取る時に潰してしまったり、落としてしまったりしないように店員さんに声をかけて取ってもらいます。店員さんがなかなかつかまらない時は（つかまらなくて買うのを諦めることもあります）、お客さんに声をかけて手伝ってもらうこともあります。声をかけるのはだいたい「おばちゃん」ですが、若い人もよく手伝ってくれ

ます。2、3回そういうことがあると、向こうの方から「今日は何食べるの？」と声をかけてくれたりもします。

気をつけているのは、22時以降に買い物する時には、仕事でクタクタになって疲れた顔をしている会社員の方々には声はかけないということです。障害があっても遠慮する必要はありませんが、相手への気遣いが大切です。また、声をかけてもスルーされることもあります。それを「差別だ！」などと一方的に見るのもちがうと思います。人それぞれ、いろんな事情がありますよね。

気持ちよく買物するために

店員さんに声をかけるタイミングも大切にしています。バックヤードにいる時には声をかけません。中に入ったらそこのその人の仕事があります。そういう空気を読むことが障害者にも必要だと思っています。そこで大事ななのは、空気を読む経験

をすることではなく、社会経験をすることですね。

と、ここまで書きましたが、そもそも駅前周辺に八百屋さんやお肉屋さんといった個人商店がなくなったことは、私の買い物にとって大きな影響がありました。店主の顔が見える個人商店であれば、もつと気兼ねなく一対一での対応がお願いできるのになあと思います。スーパーだと、いつ、誰が働いているのかがわからないので、やっぱり困ってしまうこともあります。

*

買い物は権利ですけれども、お店の人や手伝ってくれた人に「やってもらって当然」ではなく、「ありがとう」という気持ちを持つことを大切にしたいです。権利意識をしつかり持ちつつ、おべっかを使うのではなく、当事者である自分たちから買い物しやすい雰囲気をつくっていくのも社会進歩のひとつのやり方ではないでしょうか。

(いちよし ひろし)